

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらんの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和 2年 9月 14日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

勉強会を行い、グループホームの理念である「尊厳を守ること」を重点に置いたケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全員で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者様の思いに寄り添いながら認知症ケアの専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任感や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&li_gyosyoCd=2172800290-00&SerViCeCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度はコロナ禍の只中であって、ウイルス感染防止策を講じながらも利用者の尊厳を守り、より快適な生活を保障しようという意欲が感じられた。職員が一堂に会することをやめて、代わりに連絡事項だけでなく、考えて欲しいこと、注意すべきこと等を文書で回覧し、情報共有に努めている。毎日のように受診が必要な利用者につき添ったり、入浴を毎日のように希望される方の要望にできるだけ応えるため、また、利用者にゆったりと寄り添うことができるように職員体制の充実を図っている。地域の行事に出席することはできないが、代表者が届け物をしたり、外出の代わりに敷地の中で日向ぼっこをして外気に触れたり、車で出かけ、ドライブスルーが可能な店で買い物をしたりもしている。さらに、以前、デイサービスで使用していた隣接の建物を活用し、利用者と家族との面会の機会を持ったり、敬老会等の行事も行っている。コロナ禍の影響で制限がある中でも、できる限りの支援をしようという意欲が感じられた。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に入る場所に理念を掲示し、意識づけている。勉強会やカンファレンスでも理念を共有している。	担当者制度を採っていて、カンファレンスでは担当者から利用者の状況が報告される。その際、常に理念である尊厳に基づいた視点に立ち、ケア実践を行っているかを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で交流は見合わせている。	コロナ禍であるので、地域交流はできないが、少人数で近隣を散歩する際、近くの畑を耕している人と会話を交わしたり、野菜をいただいたりしている。また地域で行われている行事にも代表者が出かけ伝言をしたり、手渡しはできないが、来てくれた子どもたちにプレゼントを準備をする等、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は行えていないが、昨年度は2度行った。様々なお話を伺うことができた。今後定期的に行い、サービスの向上に活かしていきたい。	一堂に会しての運営推進会議は行っていないが、文書でホームの運営状況や利用者状況を報告している。市の担当者からは多くの情報や助言を得ている。また、地域の方々とは日常的に交流があり、様々な意見や協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には、日頃から助言やご指導、ご協力をいただいている。	地域包括支援センターや市の担当者とは普段から良好な連携関係が構築されており、様々な相談に乗ってもらっている。例えば、人材確保についての助言や協力をいただいたりしている。また、定期的な会議に参加し、情報交流を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で拘束になっていないか、相談しながらケアに取り組んでいるが、統一感には欠ける部分もあると感じている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	日常的に身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでおり、立位、歩行が不安定な方に、「座ってください。」と言うのは拘束にあたる、いや話し方や状況によるのでは？というような個々の解釈の違いについて話し合いが行われているとの事で、身体拘束に対する職員の意識の高さを感じられた。	職員一人ひとりが、考えている拘束をしないケアについて話し合える雰囲気がある事は素晴らしいことである。今後とも、話し合いを通じて共通理解を深め、より対応の統一ができるよう、話し合いの機会のさらなる充実に向けた取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関わりの中で、注意深く利用者様を見るようにしている。皆で観察することで防止にも努めている。勉強会で学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様が見えるが、勉強する場があるとよい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い、ご納得いただけるよう努めている。改定時にも十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との食事会で話を聞く機会を設けているが、今年は食事会も中止となり面会も控えていただいている状態のため、電話などでお聞きしている。いつでも気軽に意見や要望を出せる雰囲気作り心掛けている。	基本的には面会を控えていただいているが、状況に応じ、隣接の建物で対応し、面会できるよう配慮している。来所できない家族に対し、手紙や電話で連絡を取り、要望や意見を伺っている。いただいた意見や要望はサービス向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員からの意見や提案があり、反映に努めているが、もっと意見交流の場を持ちたい。	個人面談の機会や日常的な業務を通じて、意見や提案を聞いている。例えば、新入職員から利用者への対応について話し合いの機会を持ってほしい、避難訓練についていろいろな自然災害についても想定して行うべき等、様々な意見が出され、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握に努め、事情等考慮しながら就業環境の整備に努めているが、各自の向上心を引き出せていない面がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を開催している。研修の情報提供をし、参加に対し研修費や交通費の支給も行っている。(今年には行っていない。)新しいスタッフを迎え入れる際の指導が統一性に欠けていると感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会を持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の機会を持ち、ご本人様と面会し、少しでも安心していただけるようにしている。ご本人のお話をよく聞き、お気持ちに寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の際に困りごとや要望等をしっかり聞きケアに活かすことで、よりよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご本人が必要としていることと、ホームでできることを照らし合わせて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり散歩をしたり、共に過ごす時間の中で関係を築いている。時には職員が頼ったり甘えたり、相談している。仕事に追われて、ゆっくり向き合う時間が持てないと感じている職員もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご家族様に手紙を送り、利用者様の状態を伝えている。必要に応じ電話で相談・報告を行っている。ご本人の様子を把握していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍でできていない。	毎月、家族に写真を添えて近況報告の手紙を出している。利用者の希望があれば、いつでも電話をかけることができる。必要に応じて、電話を使用し、スタッフからの近況報告を行っている。コロナ禍の制限のある中、できる限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し見守りを行い、トラブル時には速やかに介入できるようにしている。利用者様が孤立しないようリビングの席を変えるなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	屋外でお会いした際には、声をかけ経過などお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話を傾聴し、ご本人の意向の把握に努めている。困難な場合は、カンファレンスで職員全体で検討している。	職員配置に余裕があり、利用者一人ひとりの話をゆっくりと聞けることができている。また、ほぼ毎日、受診支援で職員と1対1の時間を持つことができるので、利用者の満足の向上にもつながっている。利用者の意向はカンファレンスを通じて、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にケアマネやご家族様から情報提供をいただき、ご本人にも聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録、夜勤ノート、業務申し送りノートなどで利用者様の現状の把握に努めている。カンファレンスの際にも情報交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望をお聞きし、アセスメントを行い、カンファレンスにて職員間で意見交換している。アセスメントは職員によりばらつきがあると感じている。	利用者の希望をゆっくりと聞く姿勢があり、カンファレンス会議などで話し合いをしている。利用者の希望についてのとらえ方も職員によって違いがあるので、話し合いを通じて共通理解を深め、現状に即したケアプランの作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務申し送りノートや介護経過記録、カンファレンスノートなどを利用して情報の共有に努めている。気付いたことは記録に残すようにしている。ケアプランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや個人的な外出など、その時の状況に合わせ、できる限りご希望に沿えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナの影響で交流ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医に継続的に診ていただき、状況に応じた適切な医療を受けられるようにしている。歯科、鍼灸・マッサージの往診も受けられる。	近隣の医院にかかられている人が大半であるが、以前からのかかりつけ医に受診している人もいる。家族支援が困難な場合には、遠方の医院へ受診に付き添うこともしている。月2回、歯科の往診があり、口腔ケアの指導も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師の方に受診の際、情報や気づきを伝え、丁寧なご指導、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、サマリー等でご本人の普段の状態をお伝えし、環境の変化によるダメージの軽減に努めている。退院時も病院の方から情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ、早い段階でホーム・ご家族様・医師とで面談を行い、書面にて同意を得て方針を共有し、スタッフ全員で支援している。	最後までホームで生活していただけるよう看取りの体制ができており、死後のエンゼルケアまで行っている。また、夜間の緊急時に対応体制ができています。職員は利用者に対し、自分の家族のように接しており、看取りケアについても、医師、訪問看護と連携しながら、職員チーム一丸となり、支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	速やかに的確な判断ができるよう定期的に訓練を行い、実践力を身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署のご協力のもと、避難訓練を行っている。非常食や水などの物資は準備してあるが、地域の方の協力体制の強化に努めなければならない。	今年の避難訓練は、避難所生活を想定して、隣接の建物を避難所と見立てて行った。その結果、床に座ることが困難であったり、おにぎりが食べられない等、いくつかの課題を見つけることができた。非常時の持ち出し袋にムース食を用意することも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れないよう言葉使いに気を付けている。声のトーン、表情なども大切に、ジェスチャーを取り入れながらケアに当たっている。排泄時にはタオルをかけるなど対応している。	利用者の人格尊重の観点から、日々、ケアにあたっている。プライバシーの保護のため、利用者には近くでさりげなく声かけをし、言葉遣いやトーンも重視し、丁寧に行っている。浴室には暖簾をかけて中が見えにくいようにする等、細やかな配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中でご本人のお気持ちを聞き出し、ご自分で決定できるような会話に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りご希望に沿って過ごしていただけるよう努めているが、職員の都合が優先される場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や、汚れた衣服の交換には気を付けている。訪問美容師の方に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けを、楽しんで参加いただけるよう努めている。食事を職員も一緒に摂り、会話を楽しんでいる。イベント時などはいつもと違う食事をお出ししている。	冷蔵庫の中の食材を使い、今日は何を食べるかという事から利用者と一緒に考えている。利用者も台所に入り、コロナ対策の手袋をし、食材を切ったり、皮をむいたりしている。立って仕事のできない方は椅子に座りながら一緒に準備をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし、体調の変化に気付けることができている。一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。電解質を含んだ飲み物で熱中症対策も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には起床時と就寝前にケアを行っている。全員ではないが、月に2回歯科衛生士の往診による口腔ケアを受けている。自立している方ほど歯科衛生士によるケアが必要だと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて、排泄表を活用してトイレ誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンを分析し、トイレで気持ちよく排泄していただけるよう努めている。	夜間はオムツを使用している利用者もいるが、昼間はない。立位が困難な方には2人で対応する等をして、日中は全員トイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて把握している。その方に合った予防法で乳製品の摂取や腹部マッサージ、排便体操を行っている。15時には皆で廊下を歩いたりラジオ体操をして体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきの入浴日としているが、ご本人の希望によってはいつでも入浴していただけるようにしている。入浴時間は相談しながら行っている。入浴剤を入れたり音楽をかけ楽しんでいただけるようにしている。	入浴は、利用者の希望に合わせて入浴を行うようにしている。また、夜間に入ることもでき、季節によって、しょうぶ湯や柚子湯を提供する等、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調に配慮しながら、清潔で季節に合った寝具で気持ちよく眠れるよう支援している。体調に合わせ、日中いつでも休息できるようにしているが、夜の安眠に支障が出ないよう気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後、服薬確認は表を用いて行っている。薬の変更時には業務ノートに申し送り、把握している。その後の症状の変化にも気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を事前に把握し、ケアプランに取り入れ喜びのある日々を過ごせるよう支援している。嗜好品やテレビ観賞、塗り絵などの支援を個々に行うよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で前年のような外出支援はできない状態ではあるが、ホーム内でバイキング形式の食事や庭でお茶を楽しんだり工夫している。短時間の買い物はマスク着用で行っている。近所への散歩回数を増やしている。	多人数で遠方への外出はできないので、近所への散歩の機会を増やす等して支援している。近隣には、山羊を飼っている農場や用水池など様々な散歩コースがある。また、車中ドライブで近くの農協に買い物に行ったり、ドライブスルーを利用する等、コロナ対策を行いながら、できる限り利用者の満足度を高める工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者様もみえるが、ご自分で管理が難しい方は金庫にお預かりし、必要に応じて財布をお渡しして支援している。立替での買い物も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば先方の都合に合わせて電話を自由に使ってもらっている。切手や葉書など準備してあり、ポストへの投函も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理には気を付け、換気をこまめに行っている。リビングは季節を感じられるような飾りつけをしている。清潔を心掛け気持ちよく過ごせるように努めている。	コロナ対策として、1時間ごとに換気をするようにしている。廊下は天窓を開け、加湿器を設置している。リビングは広く日当たりが良く、明るく清潔感がある。また、清潔保持のため、定期的に業者に依頼し、清掃してもらっている。庭では利用者も一緒に草むしり等している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを置き、思い思いに過ごせるようにしている。畳のスペースやなども利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は使い慣れたものを持ち込んでいただいている。テレビやベッドの位置はご本人に合わせて居心地よく過ごせるよう配置している。荷物が多いと混乱される方は、こちらで荷物を預かるようにしている。	車いす対応の部屋4部屋を除き、馴染みのある量の部屋になっている。ベッドやたんすなどの配置については、転倒に配慮し、設置してある。また、タンスやソファ等、使い慣れた家具や調度品等を持ち込んだり、お気に入りの写真を飾る等、利用者の今までどおりの生活スタイルの継続を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングの入口に提灯をつけ目印にしたり、浴室にはのれん、トイレの案内張り紙、居室の名札など、利用者様にわかりやすく伝えるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和 2年 9月 14日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&ki_gyosyoId=2172800290-00&Ser.vi.cd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和2年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

勉強会を行い、グループホームの理念である「尊厳を守ること」を重点に置いたケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全員で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者様の思いに寄り添いながら認知症ケアの専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任感や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に入る場所に理念が掲示しており、支援の柱となっている。カンファレンスの中の話し合いで確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学校の運動会やこども園の行事などに出掛け交流してきたが、今年はコロナ禍で交流することが難しい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当の方のご協力のもと、昨年度は2回行うことができた。今年度は開催できていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当の方とは、必要に応じて連絡を取り、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で学ぶ機会を持っている。玄関は夜間のみ施錠しているが、掃き出し窓は危険防止のため日中も施錠している時がある。拘束になっていないか振り返りながらケアに当たっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会を持っている。介助の時に身体に異常がないか注意深く見るようにし、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様もみえるため、より理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分な説明を心掛け、ご理解いただいた上で契約を結んでいる。改定の際もその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年はコロナ禍でご家族様との食事会は中止、面会も中止している状態だが、何かあればいつでも気軽に意見・要望を言ってもらえるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案を聞く時間を大切にし、できることは反映させている。もう少しゆっくり話を聞く機会を作りたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状態の把握に努め、働きやすい環境作りに努めているが、やりがいや向上心を引き出せていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、職員のスキルアップの機会を持っている。施設外研修は現在は控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所間もない利用者様に対して、声掛けや会話を意識して行い、なじみの関係作りを心掛け信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望をしっかりと把握し、その時に必要だと思われる支援を最優先し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に希望をお聞きし、プランを作成している。その後カンファレンスで職員間で意見交換を行い、その時の状態にあった介護計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同で事を成し遂げる喜びを作るようにしている。感謝の言葉をいつも口にし、とても大切な人であり必要とされていることを感じてもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の手紙、必要に応じて電話などで利用者様の状態や出来事をお知らせしている。病院受診の付き添いをお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であまりできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、何かあった際には早めに間に入るようにしている。リビングの席にも配慮している。関わり合い、支え合えるような場面作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に相談・支援の実績はないが、退所されても関係性を大切にしている。ご家族様にお会いした時には近況をお聞きし把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや希望を聞くようにしている。伝えることができない利用者様には表情・言動からどうしたらよいか職員で話し合って検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人、ご家族様、ケアマネから情報提供をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のご様子や、その日のバイタル、表情、言動などから現状を把握し、それを記録に残すことで職員全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様に希望をお聞きし、プランを作成している。その後カンファレンスで職員間で意見交換を行い、その時の状態にあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の介護経過記録や夜勤ノート、業務申し送りノートなどを通じて情報を共有し、統一したケアができるよう努めている。介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや個人的な外出など、できる限りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナウイルスの影響で、ボランティアなどはお断りしている状況ではあるが、訪問薬剤師、鍼灸の往診、歯科の往診、訪問美容などの支援は行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得の得られたかかりつけ医に継続的に診ていただき、状況に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師の方に受診時に情報や気づきをお伝えし、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー等で状態をお伝えし、ご本人のダメージの軽減に努めている。退院時にも情報提供をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階でホーム、ご家族様、医師で面談を行い、話し合ったことを書面に残している。穏やかに最期が迎えられようチーム全体で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行われていないため、実践力を身につけるためにも行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご協力のもと、年2回の避難訓練を行い、避難方法を確認している。非常時の連絡網や、災害時に備えた食料や水を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、言葉や態度に注意している。トイレ誘導の声掛けは周りの方に分からないように配慮し、プライバシーを損ねないように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き出せるような関係づくりを心掛けている。自己決定ができるような言葉がけをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りご希望に沿えるよう努めているが、職員のペースになっている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでいただいている。化粧の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を見極めながら、一緒に食事作り、片付けなどを行い、感謝の気持ちを伝え、楽しい時間となるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、多くの食材を使うようにしている。食事の形態もご本人の状態に合わせて提供している。水分補給にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には声掛け、介助が必要な方には職員が起床、就寝時に口腔ケアを行っている。気になる箇所がある方は、訪問歯科を受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄表を利用し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて状態を把握し、乳製品を取り入れたり、腹部マッサージなども行っている。毎日施設内を歩いたり、ラジオ体操など体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は2日おきに設定されているが、嫌がられた時には無理強いせず、ご本人の希望に沿っている。会話、音楽など工夫して楽しい時間となるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清潔な寝具など準備し、気持ちよく眠れるよう支援している。休息は夜間の睡眠に支障のないように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を用い確認を行っている。薬が変わった時などは申し送りノートを活用し理解に努めている。服薬内容の用紙を個人ファイルに綴じ、すぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、得意なことなどを把握し、その方に合った作業や活動をお願いしている。生活が張り合いのある楽しいものになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で以前のような外出はできないが、短い時間でも外に出て気分転換できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年はコロナの影響で買い物に行くことができていないが、ご自分で管理ができる方以外は、金庫でお預かりしている。買い物の際にはお渡しして使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、先方のご都合も考慮の上で対応している。手紙を書かれる方への支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調に気を付け、換気も徹底して行っている。光や音など不快な刺激に注意している。利用者様に玄関に花を活けていただき、楽しみの一つとなっている。季節に合った飾りつけをし楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にいすやソファを置き、くつろいだりお話するなど自由に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただいている。家族の写真を飾るなど、安心し落ち着いた生活ができるよう工夫している。家具も使いやすいように配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングの提灯、トイレの貼り紙、自分の部屋の表札など分かりやすいように工夫されており、混乱なく生活されている。台所用品や掃除機など日常で使うものも定位置を決め、わかりやすいようにしている。		